



丸亀ドイツ兵俘虜楽団の足跡を辿って ビールとドイツ音楽の夕べ

収容された俘虜たち

1914年（大正3年）に勃発した第一次世界大戦。イギリスと交戦中のドイツに対して、日本は同盟関係にあったイギリスとともに中国領土内でドイツと戦火を交えました。数か月間の攻防が続いた後、ドイツ軍は最後の砦となっていた青島（チンタオ）が陥落し、降伏しました。その際、捕虜として捕らえられたドイツ兵4,627人が、日本にあった12か所（四国には松山、徳島、丸亀の3か所）の俘虜収容所に送られました。

同年11月、丸亀俘虜収容所（本願寺塩屋別院）に収容された俘虜324人は2年5か月もの長い間、丸亀で俘虜生活

を送るのです。

当時の俘虜の生活は、個人個人を尊重した収容所運営を図っていて、運動することやビールを飲むことなどを許可するなどの運営が行われていました。



やがて彼らの能力を生かす機会も増え始めソーセージを作ったり技術者として学校などで技能の指導を行ったりしています。

また、一番興味深いのが、俘虜のエンゲルを中心に楽団を結成し26回もの演奏会を開催しています。（上部写真）

当時の演奏された曲目も判明していて今回の演奏会でも演奏されます。

後に移転収容先となった板東収容所で日本初の”第九”の演奏がされたのも丸亀での活動がきっかけになっているのかもしれませんが。

（資料提供：鳴門市ドイツ館・丸亀市）

【用語解説】

俘虜（ふりよ）と捕虜（ほりよ）の違いについて

戦前の日本陸軍では、戦争で敵国側に捕らえられた状態を「捕虜」といい、捕虜になった後、敵の国で拘束され、生活をしている状態を「俘虜」と呼んでいたそうです。（「広報まるがめ」より）

日時：平成20年8月29日（金）午後6時30分より

場所：丸亀市民ひろば *雨天の場合は丸亀市民会館大ホール

演奏：瀬戸フィルハーモニーパイパーズ

料金：無料

なお、演奏会当日は、会場でビール・ソーセージ等の販売を行っています。

【プログラム】

- ・タンホイザー行進曲
- ・ホフマンの舟歌
- ・双頭の鷲の旗の下に
- ・ラデッキー行進曲
- ・流行歌メドレー

ほか